

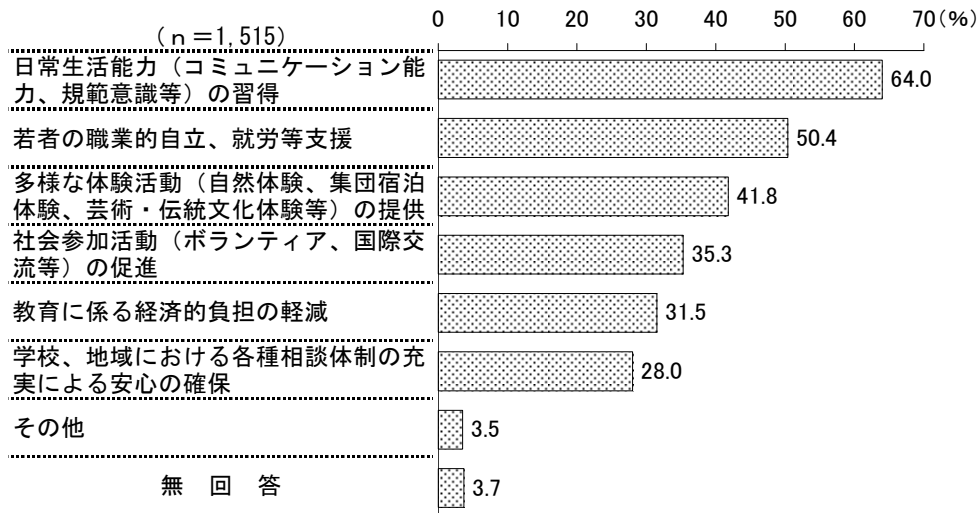
8 【青少年の健全育成について】

(1) 青少年の健全育成のために現在最も必要だと思うこと

◇「日常生活能力（コミュニケーション能力、規範意識等）の習得」が6割台半ば

問36 子ども・若者の健やかな育成を図るため、今、最も必要なことはどのようなことだと思いますか。次の中から選んでください。（○はいくつでも）

<図表36-1> 青少年の健全育成のために現在最も必要だと思うこと



子ども・若者の健やかな育成を図るため、今、最も必要なことは何だと思うか聞いたところ、「日常生活能力（コミュニケーション能力、規範意識等）の習得」（64.0%）が6割台半ばで最も多くなっており、以下、「若者の職業的自立、就労等支援」（50.4%）、「多様な体験活動（自然体験、集団宿泊体験、芸術・伝統文化体験等）の提供」（41.8%）などが続く。（図表36-1）

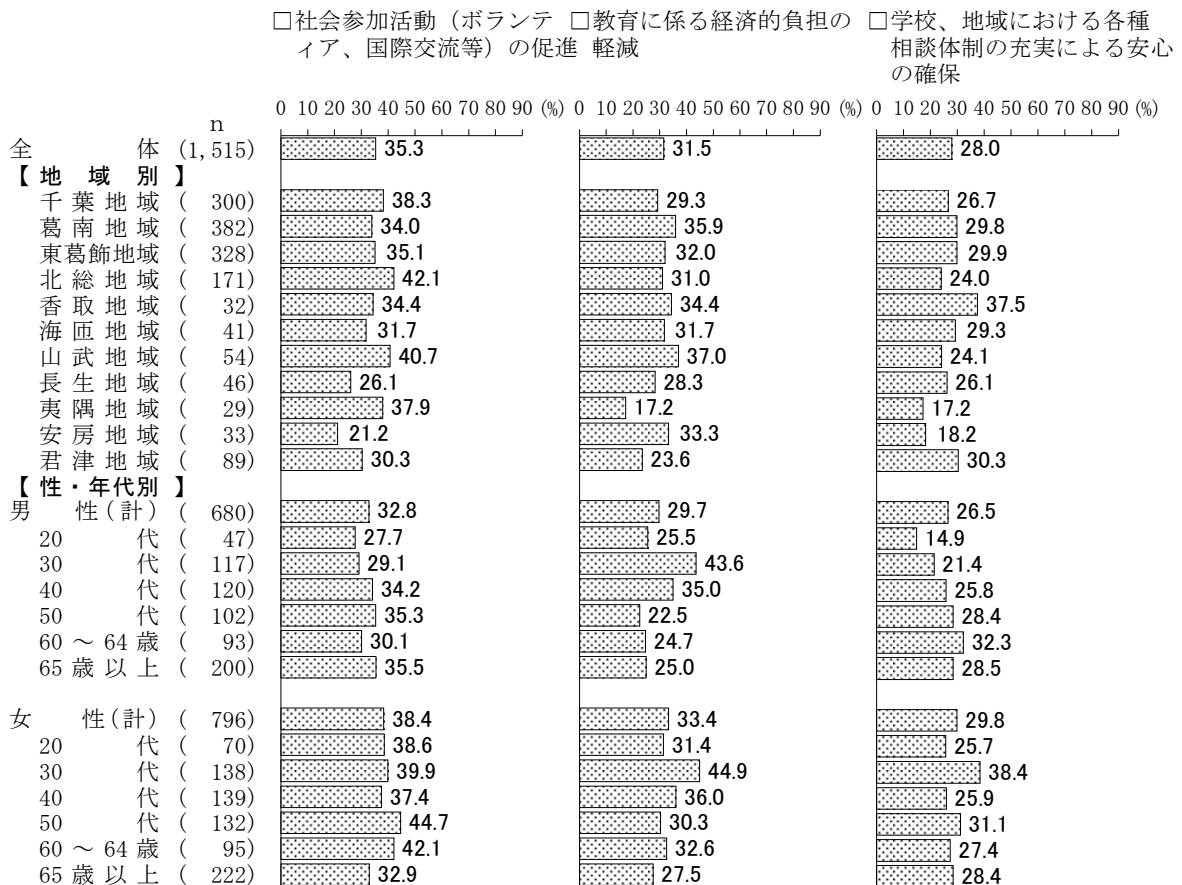
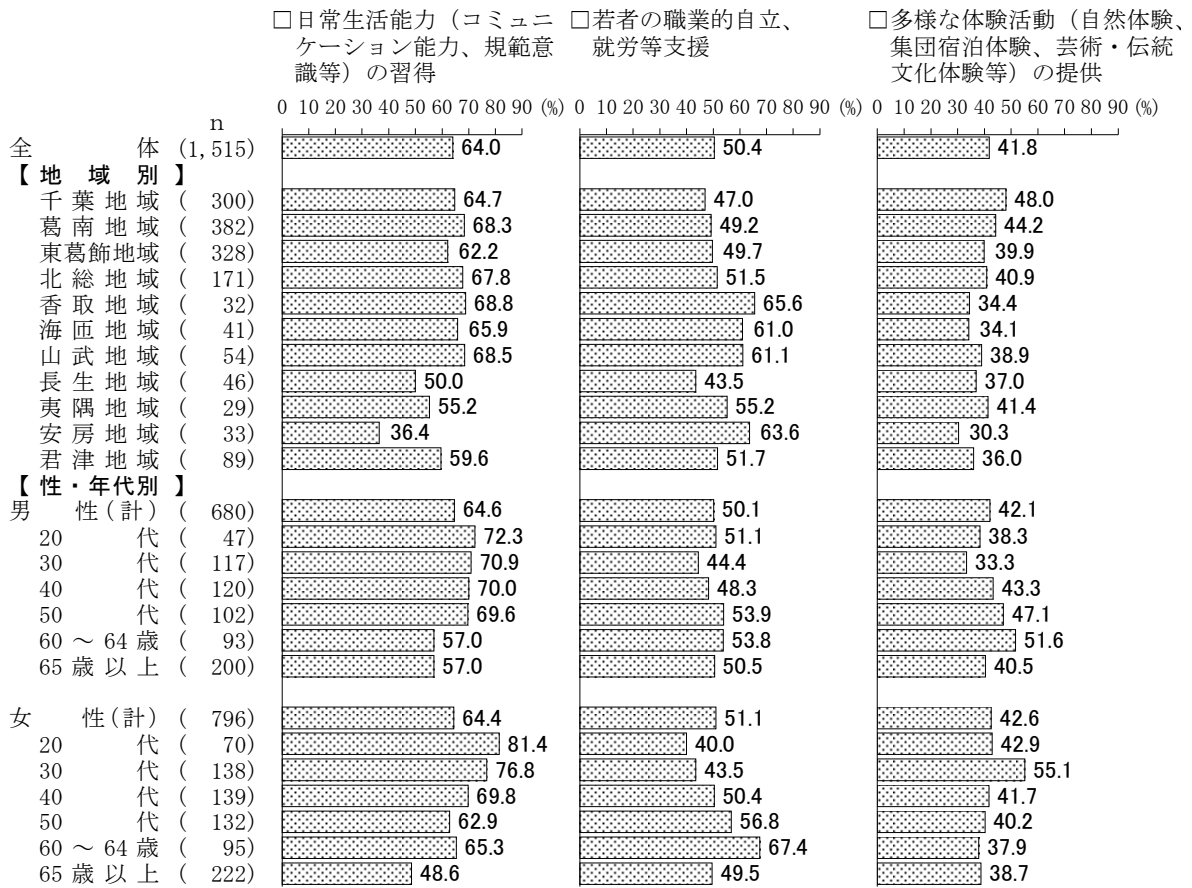
【地域別】

地域別にみると、「若者の職業的自立、就労等支援」は“香取地域”（65.6%）、“安房地域”（63.6%）が6割台半ばで多くなっている。「多様な体験活動（自然体験、集団宿泊体験、芸術・伝統文化体験等）の提供」は“千葉地域”（48.0%）が約5割となっている。（図表36-2）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「日常生活能力（コミュニケーション能力、規範意識等）の習得」は女性20代（81.4%）が8割を超えて最も多くなっている。「若者の職業的自立、就労等支援」は女性60～64歳（67.4%）が約7割となっている。「多様な体験活動（自然体験、集団宿泊体験、芸術・伝統文化体験等）の提供」は女性30代（55.1%）が5割台半ばとなっている。「教育に係る経済的負担の軽減」は男女ともに30代（男性43.6%、女性44.9%）が4割台半ばとなっている。（図表36-2）

<図表36-2> 青少年の健全育成のために現在最も必要だと思うこと／地域別、性・年代別(上位6項目)



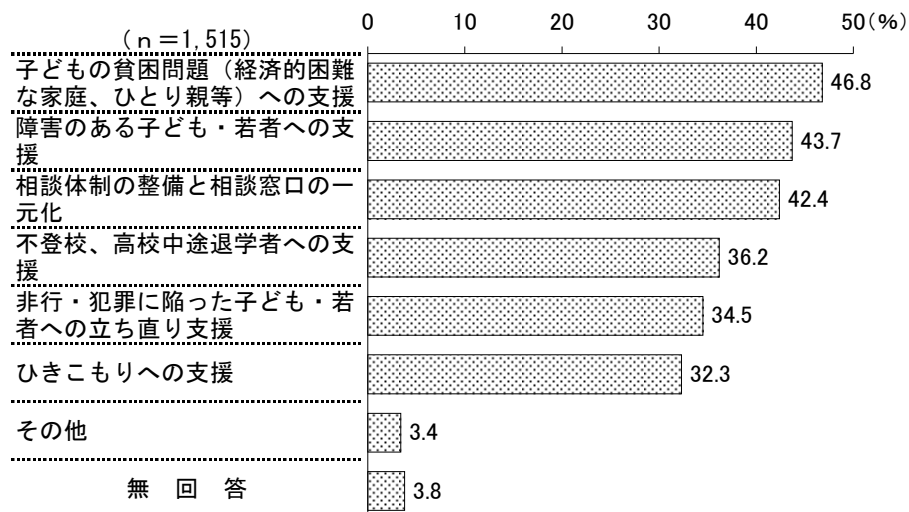
(2) 社会生活を円滑に営むことが困難な子ども・若者に対して必要な支援

◇「子どもの貧困問題（経済的困難な家庭、ひとり親等）への支援」が4割台半ば

問37 何らかの問題を抱え、社会生活を円滑に営むことが困難な子ども・若者に対する支援で、今、最も必要なことはどのようなことだと思いますか。次の中から選んでください。

(〇はいくつでも)

<図表37-1> 社会生活を円滑に営むことが困難な子ども・若者に対して必要な支援



何らかの問題を抱え、社会生活を円滑に営むことが困難な子ども・若者に対する支援で、今、最も必要なことは何だと思うか聞いたところ、「子どもの貧困問題（経済的困難な家庭、ひとり親等）への支援」(46.8%)が4割台半ばで最も多くなっており、以下、「障害のある子ども・若者への支援」(43.7%)、「相談体制の整備と相談窓口の一元化」(42.4%)などが続く。(図表37-1)

【地域別】

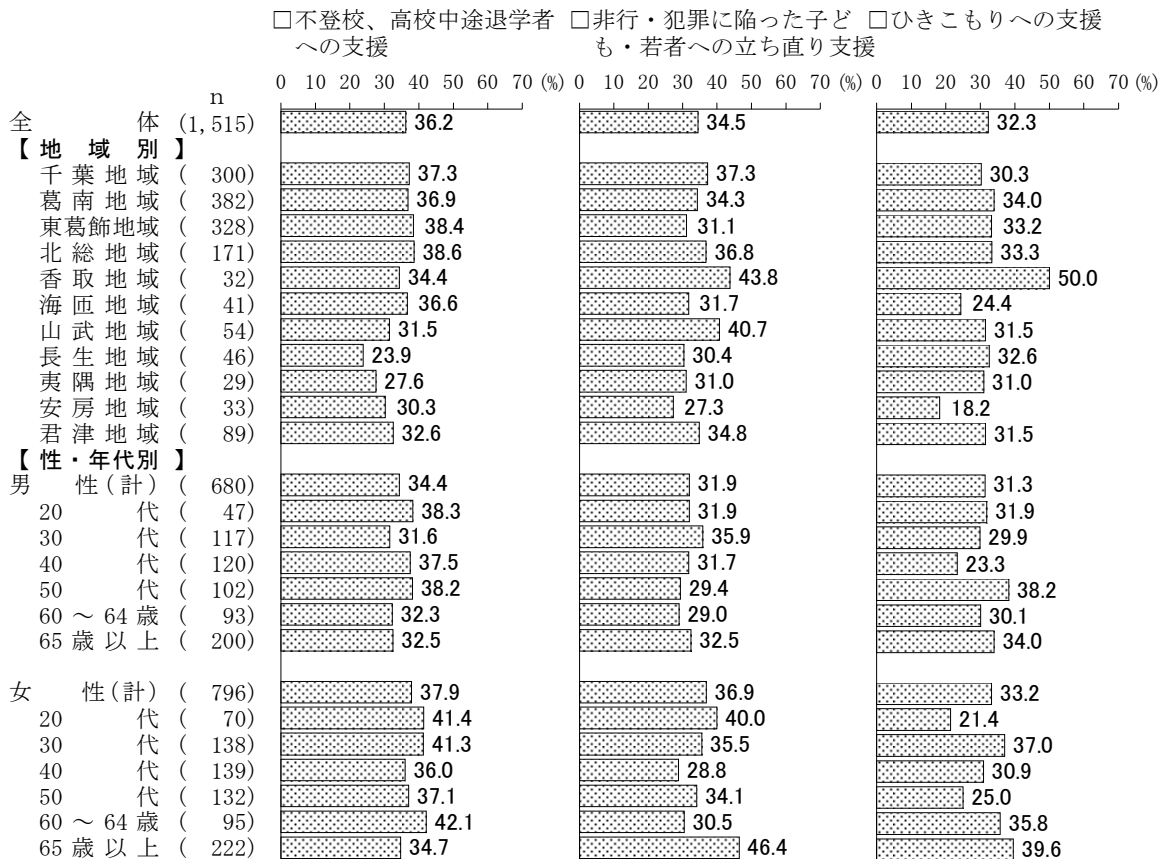
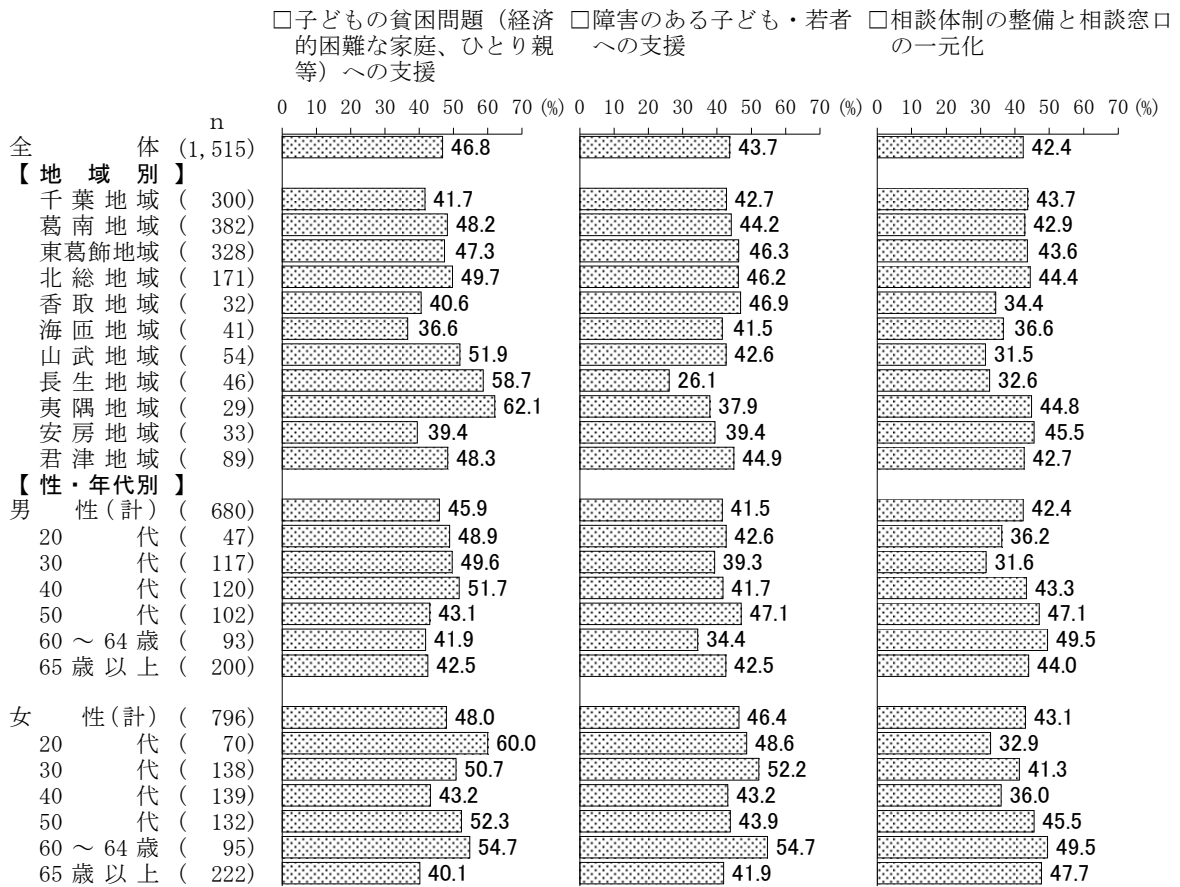
地域別にみると、「子どもの貧困問題（経済的困難な家庭、ひとり親等）への支援」は“夷隅地域” (62.1%)が6割を超えて最も多くなっており、“長生地域” (58.7%)でも約6割となっている。「ひきこもりへの支援」は“香取地域” (50.0%)が5割で多くなっている。(図表37-2)

【性・年代別】

性・年代別にみると、「子どもの貧困問題（経済的困難な家庭、ひとり親等）への支援」は女性20代 (60.0%)が6割となっている。「障害のある子ども・若者への支援」は女性60～64歳 (54.7%)が5割台半ばとなっている。「非行・犯罪に陥った子ども・若者への立ち直り支援」は女性65歳以上 (46.4%)が4割台半ばとなっている。(図表37-2)

<図表37-2> 社会生活を円滑に営むことが困難な子ども・若者に対して必要な支援

／地域別、性・年代別（上位6項目）

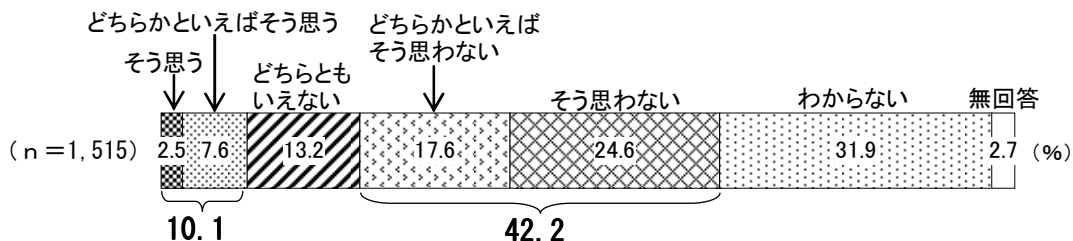


(3) 青少年問題に関する県の相談窓口の案内のわかりやすさ

◇『そう思う』は1割で、『そう思わない』は4割を超える

問38 千葉県には、青少年の問題に関する相談機関が多数ありますが、あなたは、個々の問題についてどこに相談すればいいか、分かりやすく案内されていると思いますか。(○は1つ)

<図表38-1> 青少年問題に関する県の相談窓口の案内のわかりやすさ



千葉県にある多数の青少年の問題に関する相談機関について、個々の問題についてどこに相談すればいいか、分かりやすく案内されていると思うか聞いたところ、「そう思う」(2.5%)と「どちらかといえばそう思う」(7.6%)の2つを合わせた『そう思う』(10.1%)は1割となっている。「どちらともいえない」(13.2%)は1割台半ばで、「どちらかといえばそう思わない」(17.6%)と「そう思わない」(24.6%)の2つを合わせた『そう思わない』(42.2%)は4割を超えている。(図表38-1)

【地域別】

地域別にみると、『そう思う』は“夷隅地域”(20.6%)が2割となっている。『そう思わない』は“海匝地域”(48.8%)が約5割となっている。(図表38-2)

【性・年代別】

性・年代別にみると、『そう思う』は女性50代(14.4%)が1割台半ばとなっている。『そう思わない』は男性20代(55.3%)が5割台半ばとなっている。(図表38-2)

このほかに、「青少年の健全育成について」やここまでの質問（問36～問38）について、ご意見やご提案があればご自由にお書きください。

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、143人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載するものとする。

■「青少年の健全育成について」の自由回答（抜粋）

- 相談員、相談窓口には、プロと言える人材を配置する。プロではなくても親身になってくれる人材であってほしい。形だけ用意されても役に立たない。（男性・50代・千葉地域）
- 青少年問題についてどこに相談すれば良いか教えてくれる総合案内所な相談窓口があると良い。（女性・50代・千葉地域）
- 子どもが問題を起こすのは、すべて親の責任だと思います。まず親の常識を矯正しなければならないと思います。給食費が未納となっている子どもの親が子ども手当をもらっているのは、異常です。（男性・50代・葛南地域）
- 子ども・若者への健やかな育成のため、世間の人がもっと子どもや若者に声がかかりやすい世の中になってほしいです。そうすると大人も子どもや若者の行動に注意を払うと思います。今はあまり声掛けが出来ないような気がします。（女性・60～64歳・葛南地域）
- 家庭教育を充実させることが一番です。そのためには小学校低学年までが重要になってきます。まず、親の教育が必要なのは。親がいい加減だから子どももそうなる。その悪循環を断たない限り何をやっても無駄でしょう。（女性・50代・千葉地域）
- 子どもを育てる大人が減っていると思う。保護者自身も未熟で、教育者も子どもに負けている。健全な子どもを育てるには、まず健全な大人がいないと始まらない。子どもだけでなく大人が悪いのでは。大人の教育が必要。常識のある大人が子どもを育てて、常識のある健全な子どもになる。（女性・20代・葛南地域）
- 学校以外の場所、校外学習や自治会での活動などで、コミュニケーションや社会の規律を体感して習得できる場を増やすことが必要と考えます。（男性・40代・千葉地域）
- ひきこもりや中途退学は以前とくらべものにならないほど増えていると思うので、一人ひとりに対してしっかりケアをしてあげて、理不尽な犯罪を起こす子どもが出ないように支援してあげてほしい。（女性・30代・千葉地域）
- 家庭での教育と学校での教育は連携してすすめる必要があるが、昔と比べてそれがうまくいっていないからひきこもりや不登校、中退者が増えたのだと思う。（男性・40代・東葛飾地域）
- 親同士が仲良く、助け合っていく仲間意識、連帯感が大切だと思います。人の悪口やかげ口をなくし、人と人が手をつなぐ社会を目指したい。（女性・50代・山武地域）